

Nara National Museum

奈良国立博物館 だより

第76号

平成23年 1・2・3月



重要文化財 絵因果経(当館)一名品展「珠玉の仏教美術」(2/15～3/14)より一

特別陳列

おん祭と春日信仰の美術
～1月16日(日)
東新館

お水取り
2月5日(土)～3月14日(月)
東新館

特集展示

縄文のムラ
—山形・押出遺跡からのメッセージ
1月18日(火)～2月13日(日)
修復完成記念
シルクロードを旅した漢代漆器
1月18日(火)～2月13日(日)
西新館

名品展

珠玉の仏たち
なら仏像館
中国古代青銅器
青銅器館(坂本コレクション)
※1月17日(月)から2月4日(金)まで臨時休館
珠玉の仏教美術
西新館～3月14日(月)

特別陳列

おん祭と

春日信仰の美術

1月16日(日) 会場：東新館

冬の奈良の風物詩・春日若宮おん祭は、保延二年(一一三六)にはじまったとされ、昨年十二月十七日には八七五回目が行われました。

この展覧会は、おん祭の行われる季節に合わせ、主祭神である若宮神やおん祭に関わる品々を集め、展示を通じておん祭の一端を紹介する恒例の企画です。今回はおん祭を通じて芸能として大成し、現在では日本を象徴する存在として世界的にもよく知られる猿楽・能に焦点を当てて展示を構成しています。また、お



◎能面 父尉 東京国立博物館



◎地藏菩薩立像 奈良・薬師寺



◎能装束 白地雪持柳扇面肩裾模様縫箔 東京国立博物館

ん祭を支えた春日信仰にまつわる品々を併せて展示しており、春日信仰の広がりや多様性が見渡せる内容となっています。今回は特に春日三宮の本地仏である地藏菩薩をめぐる信仰を特集しています。

この機会に奈良ゆかりの大祭、信仰について理解を深めていただければ幸いです。

特集展示

縄文のムラ―山形・押出遺跡からのメッセージ―

1月18日(火)～2月13日(日)

会場：西新館

山形県押出遺跡は縄文時代前期後半、今から約五千五百年前の集落遺跡です。良質な土器や石器のほか、通常は遺存しにくい有機質の遺物―木製品や漆製品、編み物や肉や木の実で作ったクッキーなどが大変良い状態で出土しました。中でも彩漆土器は高い技術と芸術性を示し、縄文後期・晩期に東北地方で花開いた漆工芸がすでに前期に確立していたことを示す貴重なものです。

このたび、山形県立博物館および山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館との考古資料相互活用促進事業により、文化庁のご協力も得て、押出遺跡の代表的な出土遺物を一括して展示することになりました。これは関西では初めての事です。漆の色の保存のため展示する機会を控えている彩漆土器も今回は実物を展示します。



◎彩漆土器(文化庁)

特集展示

修復完成記念 シルクロードを旅した漢代漆器

1月18日(火)～2月13日(日)

会場：西新館

この黒漆地に朱漆で文様を描いた美しい化粧箱は、クリミア半島(ウクライナ)で発掘され、日本で保存修復がおこなわれた中国・後漢時代(紀元後一世紀)の漆工品です。古代中国の漆工品の発見例としてはユーラシア大陸の最西端であり、シルクロードを通じたはるかな東西交流の実態を知ることのできる貴重なものです。

本品は、発見時には漆塗膜の細片と化していましたが、住友財団の資金援助のもと、ウクライナの考古学者ユーリ・P・サイツェフ氏と日本の人間国宝・北村昭斎氏、漆工史研究の岡田文男氏の協業により、三年の歳月をかけて見事に当初の姿がよみがえりました。この保存修復の完成を記念し、世界に先駆けて当館で特別に公開いたします。



修復の終わった漢代漆器 3合

特別陳列

お水取り

2月5日(土)～3月14日(月)

会場・東新館

東大寺二月堂の「お水取り」は、正式には修二会しゆにえといい、本尊の十一面観音に罪過を懺悔さんげし除災招福じゆさいしやうふくを祈る、悔過けかの儀式です。天平勝宝四年(七五二)に実忠和尚じつちゆうが創始して以来、千二百五十年以上にわたり絶えることなく続いてきました。儀式中に、井戸から水を汲み、本尊に供えることから「お水取り」の名でも親しまれています。

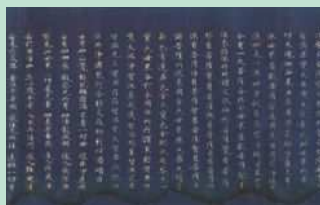
長い歴史のなかには、さまざまな困難もありました。寛文七年(二六六七)二月十四日、修二会の期間中に起きた二月堂の火災も



◎十一面観音像 東大寺



◎類秘抄(部分) 当館

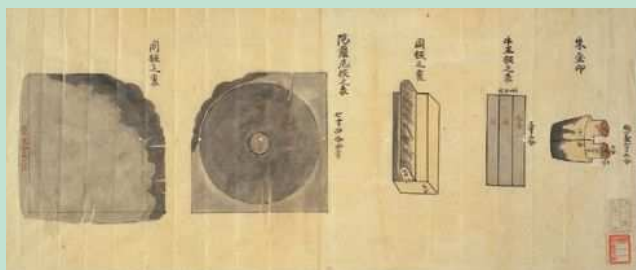


紺紙銀字華嚴經 当館



◎二月堂修中練行衆日記第廿 東大寺

その一つです。当時の記録によると、参籠宿所さんろうしゆくしょにいた練行衆れんぎやうしゆうが気付いたときには二月堂はすでに火の海。小観音こがんのんの厨子ずしをようやく運び出せただけで、二月堂は全焼し、焼け跡には大観音が痛ましい姿で立っていたといいます。記録には、焼け跡から発見された『華嚴経けえんきやう』や『牛玉陀羅尼印板木ぎやうぎょだらにいんはんぎ』のことが記されますが、その原物は今も残っています。そして今年も東大寺二月堂での修二会の季節がやってきます。毎年この時期にあわせて開催する特別陳列「お水取り」では、修二会で実際に用いられた法具、歴史と伝統を伝える絵画・文書などを展示します。この機会に、ぜひその奥深い世界をお楽しみください。



二月堂牛玉宝印・尊勝陀羅尼板木図 東大寺



尊勝陀羅尼板木 東大寺



金銅柄香炉 東大寺

平成23年1月～4月の開館日程

	1月	2月	3月	4月
なら仏像館	名品展 珠玉の仏たち			
東新館	特別陳列 おん祭と春日信仰の美術 (～1/16)	特別陳列 お水取り (2/5～3/14)		特別展 誕生!中国文明 (4/5～5/29)
西新館	名品展 珠玉の仏教美術 (～3/14)			
	特集展示 国宝を味わう (～1/10)	特集展示 縄文のムラ (1/18～2/13) 特集展示 シルクロードを旅した漢代漆器 (1/18～2/13)		
青銅器館	中国古代青銅器 (～1/16)		中国古代青銅器 (2/5～)	

仏像彫刻のX線透過撮影

——現状と課題

稲本泰生（当館学芸部企画室長）

X線透過撮影は、文化財の科学的調査の中で最もポピュラーな手法である。仏像彫刻の調査研究の場では、外見からはうかがえない像内の状況を伝えるX線透過画像が特に威力を発揮し、制作技法の解明や納入品の確認などに大きく貢献してきた。また保存修復の面でも、的確な修理設計を行う上で不可欠な情報を提供してきた。近年の機器はめざましい発達を遂げているが、当館における通常の撮影では、今なお像の背後の壁に四切フィルムを貼り付けてX線を照射し、これを現像して画像を読むという古式の方法によっており、美術史学や考古学を専門とする研究員が自力で作業にあたっているのが実状である。それでも二〇〇九年夏の特別展「寧波」に出陳された観音菩薩坐像（京都・泉涌寺、通称楊貴妃観音）の胸部における仏舎利の納入状況の確認や、二〇〇八年夏の「西国三十三所」展に出陳された性空上人坐像（兵庫・圓教寺）の頭部内における骨蔵器の発見など、最近の成果に限っても特筆すべき実績が挙げられている。ともに報道発表を行って新聞紙上で大きく取り上げられ、後者については詳しい報告も刊行された（岩田茂樹「圓教寺奥院開山堂の性空上人像」『鹿園雑集』一一、二〇〇九）。

しかし奈良時代に多数制作された塑像の場合、木彫像や乾漆像と異なつて放射線を透過しにくい素材であり、各部の厚みが一定でないこともあつて従来の方法では鮮明な画像が得られず、内部構造の理解は著しく立ち遅れていた。二〇〇二年、奈良朝塑像の最高峰の一つである東大寺戒壇堂四天王像が「東大寺のすべて」展に出陳された際、当館では新たな方法（コンピュータドラジオグラフィ）によるX線透過撮影を行い、二〇〇六年にも東大寺法華

堂執金剛神像について、現地で同様の調査を行った。この方法で使用するX線発生装置は従来と同タイプだが、像の背後にセットされる、フィルムとは異なる媒体（イメージングプレート）が格段に高感度で、作業の効率と画像の精度は飛躍的に向上する。この結果、戒壇堂像の頭から胴体にかけての心木が、一材を人形状に造形したものであること（従来は三本の角材を縦に並べていると考えられていた）などが判明し、これまでの推定を完全に塗り替える構造図解の作成に至った。まさに画期的な成果といつてよい。その一部は二〇〇二年の時点で報道発表を行ったが、このほどようやく『奈良時代の塑造神将像』（当館編、中央公論美術出版刊、二〇一〇）と題する報告書にまとめ、刊行することができた。

コンピュータドラジオグラフィによる調査は、プレートに蓄えられた情報を画像化して加工するための装置（大がかりかつ高価である）が当館にないため、外部の業者に委託した。ただしこの方法も、現在では最新鋭の座をX線CT調査に奪われつつある。先日、この方面における設備・スタッフが最も充実している九州国立博物館で、近年同館に出陳された興福寺阿修羅像などのCT調査の結果と、それに基づいて制作された石膏製の構造模型などを拝見したが、最新の機器（二〇〇六年導入）を駆使して得られる像内の三次元画像情報は、圧倒的な水準のものであった。同様の問題は医療の現場でも生じているが、内部の情報を二次元平面に定着させて読み取る調査法の限界を痛感した次第である。しかし関西圏に密集する仏像の名品を九博に輸送して調査することは、同館での展示を機に行われる場合を除き、像にかかる負

担と経費を考えれば、簡単にできるものではない。

仏像や仏教工芸の分野では、奈良博は質量ともに国内最高レベルの館蔵品・寄託品を擁しており、特別展における名品出陳の頻度も高い。当館が最新のCT法を導入すれば、研究の進展のみならず貴重な遺品の後世への継承にも寄与する、数々の重大な成果が見込める。わかりやすいところでは、納入品や内部の危険箇所の状況を、実物と寸分違わぬ形状で立体的に再現できることなどが挙げられる。現状では資金・人員の両面で高いハードルがあるが、まずは当館を拠点として行われる仏教美術の調査研究が「二番ではダメである」との認識が内外で共有されるよう、努力せねばなるまい。



持国天立像（東大寺戒壇堂四天王像のうち）X線透過写真



同 想定構造図（作図：山崎隆之氏）

出陳一覽

名品展

珠玉の仏たち

1月～3月

なら仏像館(本館)

◎石造如来三尊像(当館)、◎石造如来三尊像(個人)、◎石造十一面観音立像(当館)、石造如来立像、石造如来九尊像、石造如来坐像(以上、個人)

【塑像と埴土】 第4室

侍者像(奈良県法隆寺塔本塑像)(当館)、◎塑像断片(奈良県薬師寺西塔跡出土)(薬師寺)、◎塑像断片(奈良県川原寺裏山出土)(明日香村)、◎塑像断片(滋賀県雪野寺出土)(個人、方形独尊埴土(中国)(当館、多宝塔埴土(中国)(個人、火頭形三尊埴土(伝奈良県橘寺出土)(当館、方形三尊埴土(奈良県川原寺裏山出土)(明日香村)、六角形埴土(三重県天華寺跡出土)(当館)

【菩薩】 第5・6室

◎木造文殊菩薩坐像(薬師寺)、◎木造観音菩薩立像(細見美術財団)、◎木造虚空蔵菩薩坐像(北僧坊、木造弥勒菩薩立像(林小路町自治会、木造菩薩半跏像(文化庁、木造地藏菩薩立像(十市町自治会、◎木造地藏菩薩立像(大福寺)、◎木造地藏菩薩立像(春覚寺)、◎木造地藏菩薩立像(長命寺)

【明王】 第7室

◎木造不動明王坐像(園城寺)、◎木造不動明王坐像(正寿院、木造五大明王坐像(当館)、木造愛染明王坐像(当館)

【檀像】 第8室

◎木造薬師如来坐像(当館)、◎木造観音菩薩立像(本山寺)、◎木造十一面観音立像(当館)、◎木造釈迦如来坐像(東大寺)、木造如意輪観音坐像(当館)、◎木造諸尊仏龕(個人)、◎木造諸尊仏龕(寂照寺)

【下代の金銅仏】 第8室

◎銅造誕生釈迦仏立像(正眼寺)、◎銅造誕生釈迦仏立像(菩提真寺)、銅造誕生釈迦仏立像(個人)、銅造如来立像(当館)、銅造観音菩薩立像(興福院)、◎銅造観音菩薩立像(金剛寺)、◎銅造観音菩薩立像(観心寺)、銅造観音菩薩立像(個人)、◎銅造観音菩薩立像(法隆寺)、◎銅造菩薩立像(法起寺)

【肖像】 第10室

◎木造大津皇子坐像(薬師寺)、◎木造聖德太子立像(成福寺)、木造南無仏太子立像(当館、木造役行者倚像(個人)

【神仏習合】 第11室

◎木造八幡三神坐像(薬師寺)、◎木造大將軍神坐像(大將軍八神社)、木造男神坐像(観音寺)、木造伊豆山権現立像、木造男女神坐像、銅造金剛童子立像(以上、当館、◎銅造蔵王権現立像(大峯山寺)

【動物彫刻】 第12室

◎木造獅子、木造獅子、◎木造狛犬(以上、当館、◎木造狛犬(手向山八幡宮)

【仮面】 第13室

◎舞楽面(皇仁庭)(春日大社)、◎舞楽面(散手)(東大寺)、◎舞楽面(地久)、◎舞楽面(胡飲酒)、◎舞楽面(貴徳)、◎舞楽面(新島蘇)、◎舞楽面(二の舞・腫面)(以上、手向山八幡宮)、能面(大應児・俊寛・孫次郎)(根来寺)、◎菩薩面(浄土寺)

名品展

珠玉の仏教美術

1月2日～3月14日

西新館

【考古】1月2日～3月14日

注口土器ほか(小野コレクション)(青森岩手県出土)、銅矛(愛媛県四国中央市出土)、銅鐸(静岡県三ヶ日町出土)、◎銅鏡・鉄剣(奈良県天神山古墳出土)、犬型埴輪(伝茨城県東海村出土)、金製耳飾・金銀象嵌鳳凰文把頭ほか(奈良県塚山星塚)古墳出土、人物線刻子持壺付裝飾壺(伝愛媛県松山市出土)、軒丸瓦(奈良県横井廃寺出土)、軒丸瓦(奈良県山田寺跡出土)、軒丸瓦(奈良県川原寺出土)、軒丸瓦・軒平瓦(奈良県山田村廃寺出土)、軒丸瓦・軒平瓦(鳥根県出雲国分寺跡出土)、隅木蓋瓦(風鐸(和歌山県上野廃寺出土)(以上、当館、鬼身文鬼瓦(奈良県薬師寺出土)(京都国立博物館、鬼面文鬼瓦(奈良県中山瓦窯出土)、◎山代忌寸真作墓誌、行基舍利瓶残欠、◎佐井寺僧道葉墓出土品(墓誌・骨壺)、灰釉短頸壺・同皿(茨城県石岡市出土)、◎青磁碗・青磁皿(鳥根県萩野古墓出土)(以上、当館)、◎青磁牡丹唐草文深鉢(奈良県正暦寺出土)(正暦寺)、◎銅製経筒(天治二年銘・外筒・法華経和歌山県粉河経塚出土)、◎銅製経筒(保延七年銘)(福岡県出土)(以上、当館)、◎線刻蔵王権現鏡像(奈良県金峯山出土)(金峯山寺)、◎滑石製弥勒如来坐像(長崎県鉢形嶺経塚出土)(当館)、六角宝幢形経筒(個人)

【工芸】1月2日～3月14日

◎阿弥陀如来鏡像、蔵王権現鏡像、如来鏡像、男神対向鏡像、◎山王十社本地懸仏、十一面観音三尊懸仏、聖観音懸仏、石製舍利容器、金銅棺形舍利容器、銀製層塔形

薩立像(金剛寺)、◎銅造観音菩薩立像(観心寺)、銅造観音菩薩立像(個人)、◎銅造観音菩薩立像(法隆寺)、◎銅造菩薩立像(法起寺)

◎木造大津皇子坐像(薬師寺)、◎木造聖德太子立像(成福寺)、木造南無仏太子立像(当館、木造役行者倚像(個人)

◎木造八幡三神坐像(薬師寺)、◎木造大將軍神坐像(大將軍八神社)、木造男神坐像(観音寺)、木造伊豆山権現立像、木造男女神坐像、銅造金剛童子立像(以上、当館、◎銅造蔵王権現立像(大峯山寺)

◎木造獅子、木造獅子、◎木造狛犬(以上、当館、◎木造狛犬(手向山八幡宮)

◎舞楽面(皇仁庭)(春日大社)、◎舞楽面(散手)(東大寺)、◎舞楽面(地久)、◎舞楽面(胡飲酒)、◎舞楽面(貴徳)、◎舞楽面(新島蘇)、◎舞楽面(二の舞・腫面)(以上、手向山八幡宮)、能面(大應児・俊寛・孫次郎)(根来寺)、◎菩薩面(浄土寺)

◎木造不動明王坐像(園城寺)、◎木造不動明王坐像(正寿院、木造五大明王坐像(当館)、木造愛染明王坐像(当館)

◎木造薬師如来坐像(当館)、◎木造観音菩薩立像(本山寺)、◎木造十一面観音立像(当館)、◎木造釈迦如来坐像(東大寺)、木造如意輪観音坐像(当館)、◎木造諸尊仏龕(個人)、◎木造諸尊仏龕(寂照寺)

◎銅造誕生釈迦仏立像(正眼寺)、◎銅造誕生釈迦仏立像(菩提真寺)、銅造誕生釈迦仏立像(個人)、銅造如来立像(当館)、銅造観音菩薩立像(興福院)、◎銅造観音菩薩立像(金剛寺)、◎銅造観音菩薩立像(観心寺)、銅造観音菩薩立像(個人)、◎銅造観音菩薩立像(法隆寺)、◎銅造菩薩立像(法起寺)

◎木造大津皇子坐像(薬師寺)、◎木造聖德太子立像(成福寺)、木造南無仏太子立像(当館、木造役行者倚像(個人)

◎木造八幡三神坐像(薬師寺)、◎木造大將軍神坐像(大將軍八神社)、木造男神坐像(観音寺)、木造伊豆山権現立像、木造男女神坐像、銅造金剛童子立像(以上、当館、◎銅造蔵王権現立像(大峯山寺)

◎木造獅子、木造獅子、◎木造狛犬(以上、当館、◎木造狛犬(手向山八幡宮)

◎舞楽面(皇仁庭)(春日大社)、◎舞楽面(散手)(東大寺)、◎舞楽面(地久)、◎舞楽面(胡飲酒)、◎舞楽面(貴徳)、◎舞楽面(新島蘇)、◎舞楽面(二の舞・腫面)(以上、手向山八幡宮)、能面(大應児・俊寛・孫次郎)(根来寺)、◎菩薩面(浄土寺)

◎木造不動明王坐像(園城寺)、◎木造不動明王坐像(正寿院、木造五大明王坐像(当館)、木造愛染明王坐像(当館)

◎木造薬師如来坐像(当館)、◎木造観音菩薩立像(本山寺)、◎木造十一面観音立像(当館)、◎木造釈迦如来坐像(東大寺)、木造如意輪観音坐像(当館)、◎木造諸尊仏龕(個人)、◎木造諸尊仏龕(寂照寺)

◎銅造誕生釈迦仏立像(正眼寺)、◎銅造誕生釈迦仏立像(菩提真寺)、銅造誕生釈迦仏立像(個人)、銅造如来立像(当館)、銅造観音菩薩立像(興福院)、◎銅造観音菩薩立像(金剛寺)、◎銅造観音菩薩立像(観心寺)、銅造観音菩薩立像(個人)、◎銅造観音菩薩立像(法隆寺)、◎銅造菩薩立像(法起寺)

◎木造大津皇子坐像(薬師寺)、◎木造聖德太子立像(成福寺)、木造南無仏太子立像(当館、木造役行者倚像(個人)

◎木造八幡三神坐像(薬師寺)、◎木造大將軍神坐像(大將軍八神社)、木造男神坐像(観音寺)、木造伊豆山権現立像、木造男女神坐像、銅造金剛童子立像(以上、当館、◎銅造蔵王権現立像(大峯山寺)

◎木造獅子、木造獅子、◎木造狛犬(以上、当館、◎木造狛犬(手向山八幡宮)

◎舞楽面(皇仁庭)(春日大社)、◎舞楽面(散手)(東大寺)、◎舞楽面(地久)、◎舞楽面(胡飲酒)、◎舞楽面(貴徳)、◎舞楽面(新島蘇)、◎舞楽面(二の舞・腫面)(以上、手向山八幡宮)、能面(大應児・俊寛・孫次郎)(根来寺)、◎菩薩面(浄土寺)

◎木造不動明王坐像(園城寺)、◎木造不動明王坐像(正寿院、木造五大明王坐像(当館)、木造愛染明王坐像(当館)

◎木造薬師如来坐像(当館)、◎木造観音菩薩立像(本山寺)、◎木造十一面観音立像(当館)、◎木造釈迦如来坐像(東大寺)、木造如意輪観音坐像(当館)、◎木造諸尊仏龕(個人)、◎木造諸尊仏龕(寂照寺)

◎銅造誕生釈迦仏立像(正眼寺)、◎銅造誕生釈迦仏立像(菩提真寺)、銅造誕生釈迦仏立像(個人)、銅造如来立像(当館)、銅造観音菩薩立像(興福院)、◎銅造観音菩薩立像(金剛寺)、◎銅造観音菩薩立像(観心寺)、銅造観音菩薩立像(個人)、◎銅造観音菩薩立像(法隆寺)、◎銅造菩薩立像(法起寺)

◎木造大津皇子坐像(薬師寺)、◎木造聖德太子立像(成福寺)、木造南無仏太子立像(当館、木造役行者倚像(個人)

◎木造八幡三神坐像(薬師寺)、◎木造大將軍神坐像(大將軍八神社)、木造男神坐像(観音寺)、木造伊豆山権現立像、木造男女神坐像、銅造金剛童子立像(以上、当館、◎銅造蔵王権現立像(大峯山寺)

◎木造獅子、木造獅子、◎木造狛犬(以上、当館、◎木造狛犬(手向山八幡宮)

◎舞楽面(皇仁庭)(春日大社)、◎舞楽面(散手)(東大寺)、◎舞楽面(地久)、◎舞楽面(胡飲酒)、◎舞楽面(貴徳)、◎舞楽面(新島蘇)、◎舞楽面(二の舞・腫面)(以上、手向山八幡宮)、能面(大應児・俊寛・孫次郎)(根来寺)、◎菩薩面(浄土寺)

◎木造不動明王坐像(園城寺)、◎木造不動明王坐像(正寿院、木造五大明王坐像(当館)、木造愛染明王坐像(当館)

◎木造薬師如来坐像(当館)、◎木造観音菩薩立像(本山寺)、◎木造十一面観音立像(当館)、◎木造釈迦如来坐像(東大寺)、木造如意輪観音坐像(当館)、◎木造諸尊仏龕(個人)、◎木造諸尊仏龕(寂照寺)

◎銅造誕生釈迦仏立像(正眼寺)、◎銅造誕生釈迦仏立像(菩提真寺)、銅造誕生釈迦仏立像(個人)、銅造如来立像(当館)、銅造観音菩薩立像(興福院)、◎銅造観音菩薩立像(金剛寺)、◎銅造観音菩薩立像(観心寺)、銅造観音菩薩立像(個人)、◎銅造観音菩薩立像(法隆寺)、◎銅造菩薩立像(法起寺)



爵(坂本コレクション)(当館)



◎十一面観音立像(当館)



木造男神坐像(観音寺)



木造愛染明王像坐像(当館)



◎木造阿弥陀如来坐像(東大寺)

【中国の石仏】 第4室

◎脱活乾漆金剛力士立像(法華堂所在)(東大寺)

【特別公開 東大寺法華堂金剛力士像】 第3室

◎木造釈迦如来立像(法明寺)、◎木造薬師如来坐像(勝林寺)、◎木造阿弥陀如来坐像(東大寺)、木造阿弥陀如来坐像(當麻寺)、◎木造宝冠阿弥陀如来坐像(當麻寺)、◎木造裸形阿弥陀如来立像(浄土寺)、木造如来立像(当館)

【如来】 第2室

◎木造釈迦如来立像(法明寺)、◎木造阿弥陀如来坐像(東大寺)、◎木造増長天立像(法明寺)、◎木造増長天立像(称名寺)、木造広目天立像、木造毘沙門天立像(以上、当館)、◎木造十二神将立像(六軀)(東大寺、木造十二神将立像(当館)

【護法の天部形】 第1室 第9室

◎木造千手観音立像(園城寺)、◎木造十一面観音立像(当館)、◎木造准胝観音立像(個人)、◎木造如意輪観音坐像(当館)、◎木造不空羼索観音坐像(東鳴川観音講)

◎木造不動明王坐像(園城寺)、◎木造不動明王坐像(正寿院、木造五大明王坐像(当館)、木造愛染明王坐像(当館)

◎木造薬師如来坐像(当館)、◎木造観音菩薩立像(本山寺)、◎木造十一面観音立像(当館)、◎木造釈迦如来坐像(東大寺)、木造如意輪観音坐像(当館)、◎木造諸尊仏龕(個人)、◎木造諸尊仏龕(寂照寺)

◎銅造誕生釈迦仏立像(正眼寺)、◎銅造誕生釈迦仏立像(菩提真寺)、銅造誕生釈迦仏立像(個人)、銅造如来立像(当館)、銅造観音菩薩立像(興福院)、◎銅造観音菩薩立像(金剛寺)、◎銅造観音菩薩立像(観心寺)、銅造観音菩薩立像(個人)、◎銅造観音菩薩立像(法隆寺)、◎銅造菩薩立像(法起寺)

◎木造大津皇子坐像(薬師寺)、◎木造聖德太子立像(成福寺)、木造南無仏太子立像(当館、木造役行者倚像(個人)

◎木造八幡三神坐像(薬師寺)、◎木造大將軍神坐像(大將軍八神社)、木造男神坐像(観音寺)、木造伊豆山権現立像、木造男女神坐像、銅造金剛童子立像(以上、当館、◎銅造蔵王権現立像(大峯山寺)

◎木造獅子、木造獅子、◎木造狛犬(以上、当館、◎木造狛犬(手向山八幡宮)

◎舞楽面(皇仁庭)(春日大社)、◎舞楽面(散手)(東大寺)、◎舞楽面(地久)、◎舞楽面(胡飲酒)、◎舞楽面(貴徳)、◎舞楽面(新島蘇)、◎舞楽面(二の舞・腫面)(以上、手向山八幡宮)、能面(大應児・俊寛・孫次郎)(根来寺)、◎菩薩面(浄土寺)

◎木造不動明王坐像(園城寺)、◎木造不動明王坐像(正寿院、木造五大明王坐像(当館)、木造愛染明王坐像(当館)

◎木造薬師如来坐像(当館)、◎木造観音菩薩立像(本山寺)、◎木造十一面観音立像(当館)、◎木造釈迦如来坐像(東大寺)、木造如意輪観音坐像(当館)、◎木造諸尊仏龕(個人)、◎木造諸尊仏龕(寂照寺)

◎銅造誕生釈迦仏立像(正眼寺)、◎銅造誕生釈迦仏立像(菩提真寺)、銅造誕生釈迦仏立像(個人)、銅造如来立像(当館)、銅造観音菩薩立像(興福院)、◎銅造観音菩薩立像(金剛寺)、◎銅造観音菩薩立像(観心寺)、銅造観音菩薩立像(個人)、◎銅造観音菩薩立像(法隆寺)、◎銅造菩薩立像(法起寺)

◎木造大津皇子坐像(薬師寺)、◎木造聖德太子立像(成福寺)、木造南無仏太子立像(当館、木造役行者倚像(個人)

◎木造八幡三神坐像(薬師寺)、◎木造大將軍神坐像(大將軍八神社)、木造男神坐像(観音寺)、木造伊豆山権現立像、木造男女神坐像、銅造金剛童子立像(以上、当館、◎銅造蔵王権現立像(大峯山寺)

◎木造獅子、木造獅子、◎木造狛犬(以上、当館、◎木造狛犬(手向山八幡宮)

◎舞楽面(皇仁庭)(春日大社)、◎舞楽面(散手)(東大寺)、◎舞楽面(地久)、◎舞楽面(胡飲酒)、◎舞楽面(貴徳)、◎舞楽面(新島蘇)、◎舞楽面(二の舞・腫面)(以上、手向山八幡宮)、能面(大應児・俊寛・孫次郎)(根来寺)、◎菩薩面(浄土寺)

◎木造不動明王坐像(園城寺)、◎木造不動明王坐像(正寿院、木造五大明王坐像(当館)、木造愛染明王坐像(当館)

◎木造薬師如来坐像(当館)、◎木造観音菩薩立像(本山寺)、◎木造十一面観音立像(当館)、◎木造釈迦如来坐像(東大寺)、木造如意輪観音坐像(当館)、◎木造諸尊仏龕(個人)、◎木造諸尊仏龕(寂照寺)

◎銅造誕生釈迦仏立像(正眼寺)、◎銅造誕生釈迦仏立像(菩提真寺)、銅造誕生釈迦仏立像(個人)、銅造如来立像(当館)、銅造観音菩薩立像(興福院)、◎銅造観音菩薩立像(金剛寺)、◎銅造観音菩薩立像(観心寺)、銅造観音菩薩立像(個人)、◎銅造観音菩薩立像(法隆寺)、◎銅造菩薩立像(法起寺)

◎木造大津皇子坐像(薬師寺)、◎木造聖德太子立像(成福寺)、木造南無仏太子立像(当館、木造役行者倚像(個人)

◎木造八幡三神坐像(薬師寺)、◎木造大將軍神坐像(大將軍八神社)、木造男神坐像(観音寺)、木造伊豆山権現立像、木造男女神坐像、銅造金剛童子立像(以上、当館、◎銅造蔵王権現立像(大峯山寺)

◎木造獅子、木造獅子、◎木造狛犬(以上、当館、◎木造狛犬(手向山八幡宮)

◎舞楽面(皇仁庭)(春日大社)、◎舞楽面(散手)(東大寺)、◎舞楽面(地久)、◎舞楽面(胡飲酒)、◎舞楽面(貴徳)、◎舞楽面(新島蘇)、◎舞楽面(二の舞・腫面)(以上、手向山八幡宮)、能面(大應児・俊寛・孫次郎)(根来寺)、◎菩薩面(浄土寺)



華嚴經卷第十五(当館)



繪因果経(部分)(当館)



銅製経筒・外筒(粉河経塚出土)(当館)



銅三鈷杆(当館)

舍利容器及び金製内容器(以上、当館)、
◎金銅火焰宝珠形舍利容器(海龍王寺)、
◎金銅三角五輪塔(浄土寺)、◎四方殿舍利厨子(能満院)〔1月16日〕、◎首懸駄都種子曼荼羅彩繪厨子(当館)〔1月16日〕、◎五輪塔嵌装舍利厨子(不退寺)〔1月16日〕、◎春日龍珠箱(当館)〔1月16日〕、◎金銅透彫舍利容器(西大寺)〔1月18日〕、密観宝珠嵌装舍利厨子(金剛山寺)〔1月18日〕、2月13日、密観宝珠嵌装舍利厨子(当館)〔2月15日〕、◎五輪塔嵌装舍利厨子(当館)〔1月18日〕、2月13日、宝珠台(海住山寺)〔1月18日〕、2月13日、能作性塔及水晶製宝珠(海住山寺)〔1月18日〕、2月13日、黒漆塗厨子(性海寺)〔2月15日〕、百万塔及び無垢浄光経陀羅尼(当館)、神護寺経帙(当館)〔1月16日〕、◎金銅透彫経筒(万徳寺)、◎孔雀鎗金経箱(浄土寺)〔1月16日〕、菊唐草牡丹文経箱(個人)〔1月18日〕、2月13日、◎蓮唐草時絵経箱(当館)〔2月15日〕、◎金銅尾長鳥文華鬘(個人)、◎金銅種子華鬘(当館)、金銅種子華鬘(当館)〔1月16日〕、◎刺繡三昧耶幡〔1月16日〕、◎金銅透彫華鬘(金色院)〔1月18日〕、錦幡(当館)〔1月18日〕、◎黒漆螺鈿卓(東大寺)〔2月15日〕、銅王子形水瓶、銅仙蓋形水瓶、銅信貴形水瓶、銅布薩水瓶、鯉口(以上、当館)、◎銅仏餉鉢(金剛峯寺)、◎銅三具足(聖衆来迎寺)、金銅柄香炉(高山寺)、金銅火舎(当館)、◎堆朱香盆(聖衆来迎寺)〔1月16日〕、人物樓閣文香合(当館)〔1月18日〕、2月13日、牡丹文香合(当館)〔2月15日〕、銅三鈷杆(当館)、◎銅鏡(円福寺)、◎金銅四天王五鈷鈴(弥谷寺)、金銅五大明王五鈷鈴(当館)、金銅独鈷杆(松尾寺)、金銅三鈷杆、金銅五鈷杆(以上、当館)、◎金銅五鈷杆(細見美術財団)、◎金銅独鈷鈴・金銅三鈷鈴・金銅五鈷鈴(五種鈴のうち)(当館、金銅一面器(西大寺)、

金銅羯磨(当館)〔1月16日〕、金銅輪宝(当館)〔1月16日〕、◎紙胎漆彩繪華籠(万徳寺)〔1月16日〕、◎黒漆時絵戒体箱(万徳寺)〔1月16日〕、◎黒漆金銅装戒体箱(金剛寺)〔1月16日〕、金銅装鳥宝相華文説相箱(個人)〔1月16日〕、◎梵鐘(当館)〔1月18日〕、梵鐘(当館)〔1月18日〕、孔雀文磬(当館)〔1月18日〕、◎草花文磬(峰定寺)〔1月18日〕、◎蓮華形磬(赤松院)〔1月18日〕、◎錫杖頭(個人)〔1月16日〕、錫杖頭(当館)〔1月16日〕、◎螺鈿玳瑁唐文合子(當麻寺)〔1月16日〕、◎宝相華文如意(当館)〔1月18日〕、◎黒紫地蓮唐草文符衣(奈良豆比古神社)〔1月16日〕、◎朱漆海松円文螺鈿鞍(手向山八幡宮)〔1月18日〕、2月13日、◎黒漆四枚唐木鞍(手向山八幡宮)〔1月18日〕、2月13日、拄杖(当館)〔2月15日〕、念珠(当館)〔2月15日〕

〔絵画〕

1月2日、16日 密教絵画

◎阿闍梨茶羅(子鳥曼茶羅)〔子嶋寺〕、◎高雄曼茶羅(長谷寺)、◎胎藏図像(当館)、◎一字金輪曼茶羅(南法華寺)、◎尊勝曼茶羅(当館)、◎大日如来像(金剛峯寺)、◎七髻文殊像(宝寿院)、◎五大虚空蔵曼茶羅(大覚寺)、◎五大尊像(来振寺)、◎不動明王三童子像(瑞瑞寺)、◎俱利伽羅龍劍三童子像(当館)、◎愛染明王像(細見美術財団)、◎十二天像のうち毘沙門天・月天(西大寺)、◎十二天像のうち梵天・帝釈天(聖衆来迎寺)
1月18日、2月13日 浄土教絵画
◎阿弥陀八大菩薩像(松尾寺)、◎阿弥陀如来像(西教寺)、◎阿弥陀五尊像(一乗寺)、◎阿弥陀三尊来迎図(心蓮社)、◎阿弥陀聖衆来迎図(松尾寺)、◎阿弥陀三尊及び童子像(法華寺)、◎阿弥陀聖衆来迎図(迅雲弥陀)(西教寺)、◎九品来迎図(上品上

生・上品中生)(龍土寺)、◎四十九化仏来迎図(光明寺)、◎釈迦阿弥陀梵遺来迎図(雲辺寺)、◎二河白道図(蓮光寺)、◎阿弥陀浄土曼荼羅(当館)、◎阿弥陀曼荼羅(西教寺)、当麻曼荼羅(西来寺)、当麻曼荼羅科註(浄橋寺)、覚禪鈔(阿弥陀法)(勸修寺)、善恵上人絵巻(浄橋寺)
2月15日、3月14日 涅槃図と経綫
◎絵因果経(当館)、◎華嚴五十五所絵巻、◎華嚴五十五所絵、◎華嚴海会善知識曼荼羅(以上、東大寺)、◎普賢菩薩像、◎普賢十羅刹女像(以上、当館)、法華曼荼羅(下部神社)、法華経曼荼羅、◎釈迦靈鷲山説法図(以上、当館)、◎仏涅槃図(達磨寺)、仏涅槃図(正暦寺(奈良))、◎仏涅槃図(浄土寺)、◎仏涅槃図(正暦寺(京都))、仏涅槃図(永慶寺)、◎釈迦八相成道図(大福田寺)、◎八相涅槃図(劍神社)
〔書跡〕
1月2日、16日
月燈三昧経巻第六、阿闍世王経巻下(五月一日経)、大智度経論巻第六十六(既多寺知蔵経)、◎阿含経巻第九(善光寺印経)、法華経巻第二(蝶鳥下絵料紙)、金剛頂経瑜伽十八会指帰(中尊寺経)以上、当館、弘法大師二十五箇条遺告(能満院)、◎慈円僧正懷紙、◎元庵普寧墨跡、◎清拙正澄墨跡法語(以上、当館)、◎禪院額字前後(東福寺)、絶海中津墨跡賈島詩、策彦周良墨跡探春(以上、慈濟院)
1月18日、2月13日
華手経(五月一日経)、◎灌頂隨願往生経(石川年足願経)、紺紙金字大智度論(神護寺経)(以上、当館)、◎法華経(丹生都比売神社)、毘尼母経巻第五(足利尊氏願経)、◎類秘抄(天自在天已下四天王図像巻)以上、当館、◎観尊自筆書状(西大寺)、百万塔陀羅尼、華嚴経巻第十五(春日版)、大般若経巻第三百六十五(五山版)、焚薪(宋版一切経)(以上、当館)、◎大般若経巻第八

十四(宋版一切経)(長谷寺)
2月15日、3月14日
大般若経巻第三百三十六(施福寺)、諸菩薩求仏本業経(五月一日経)、◎法華経(色紙経)(以上、当館)、◎大般若涅槃経(中尊寺経)(金剛峯寺)、◎涅槃会法式(高山寺)、◎涅槃講式(劍神社)、涅槃講式・遺跡講式、三宝絵、明月記、祐賢和歌懷紙(春日懷紙)(以上、当館)
〔西新館 西休室〕
春日塔跡出土品(当館)
※◎国宝、◎重要文化財
※すべての展示において内容を一部変更する場合があります。
〔表紙写真解説〕
絵因果経
当館
紙本書色
奈良時代(八世紀)
釈迦の伝記を説く経典『過去無量阿僧祇劫』(劉宋・求那跋陀羅、五世紀中頃)に絵を付けたもの。下段に経文、上段に対応する絵が進行する。同様の奈良時代の絵因果経は数種現存するが、絵画の画風などから中国製の原本を写したと考えられる。本品は京都・上品蓮台寺所蔵品の後に続く部分で、太子(出家以前の釈迦)が城の北門を出て比丘と問答する場面から、太子が出家の意志を固め帰城する場面、太子の従者が、太子が比丘と会ったことを王(釈迦の父)に告げる場面、出家の意志を翻さるため、王の命で太子と妃のために奏楽歌舞が催される場面、そして太子が王に出家の許しを乞う場面と続く。
上質な顔料を用いた絵画と気品あふれる写経とで構成される本品は、豊かな仏教文化を育んだ奈良時代に生み出され、今に伝えられた稀有な品である。
北澤菜月(当館学芸部研究員)

平成二十二年十一月、正倉院展が終了した直後から、なら仏像館と新館の間を発掘調査いたしました。この場所(保延六年(一一四〇)に鳥羽上皇の発願により建立された春日東塔とそれを取巻く回廊・築地塀(東塔院)の北東隅にあたります。調査は奈良文化財研究所と当館の共同事業として行い、地表下約一・四メートルの深さでようやく東塔院の区画施設を発見しました。瓦や礫が溜まった雨落溝がし字に曲がる様子が確認されたので、その内側には築地塀の曲り角が存在したと推測されます。塀そのものは後世に削り取られてしまったようですが、これで東塔院の北限と東限を確定することができました(調査は十二月末で終了)。

当館の敷地は春日社の参道に隣接しており、平安時代に春日社に寄進された春日西塔院(関白藤原忠実の発願)と東塔院の両方が、その周辺地も含めて埋蔵されています。博物館の敷地に本物の塔跡が二つもあるのは、全国広しといえども奈良国立博物館だけかと思えます。その実態解明や保存に向けて、今後の調査や検討が私たちの課題になっています。



調査区全景

● 公開講座 ●

特別陳列「お水取り」

2月12日(土) 「修二会——不退の行法」 筒井寛昭師
(東大寺上院院主／東大寺塔頭龍松院住職)

午後1時30分～3時(午後1時に開場)。
会場は当館講堂。定員196名(先着順。午後1時より、講堂入口で入場券を配布します)。
聴講無料
※入場の際には、展覧会の観覧券もしくはその半券をご提示ください

● サンデートーク ●

1月16日(日) 「阿育王塔の今生図」
稲本泰生(当館学芸部企画室長)

2月20日(日) 「蓬萊の玉の枝—作り物閑話」
清水 健(当館学芸部研究員)

3月20日(日) 「奈良の仏像」
鈴木喜博(当館学芸部上席研究員)

各回とも、午後2時～3時30分(午後1時30分に開場)。
会場は当館講堂。定員196名(先着順)。聴講無料

● イベント ●

1月2日(日) 入館者全員にオリジナルグッズプレゼント

1月10日(月・祝) 金春穂高 能を語る 一実演と解説

午後1時30分～3時(開場は午後1時)。会場は当館講堂。定員196名(全席自由)。
料金は前売2,000円、当日2,500円(前売券が完売の場合、当日券の販売はありません)。
※当日(1月10日)に限り、チケット半券で、開催中の展示をご覧いただけます

1月29日(土) 奈良国立博物館落語シリーズ
「まほろば寄席・第11回」

午後2時～4時(開場は午後1時30分)。会場は当館講堂。定員196名(全席自由)。
料金は前売2,000円、当日2,500円(前売券が完売の場合、当日券の販売はありません)

2月6日(日) お水取り「講話」と「粥」の会

午前11時より午後3時30分頃まで。定員40名。参加費6,000円。
(詳しくは当館ホームページをご覧ください、下記までお問い合わせください)

2月9日(水) 文化財保存修理所特別公開

午前10時～、午後1時～、午後3時～(各回とも同内容。約60分)
※往復はがきによる事前申し込み制。はがき1枚につき1名様。応募者多数の場合は抽選。
各回とも定員40名。参加費無料。
(詳しくは当館ホームページをご覧ください、下記までお問い合わせください)

※各イベントの詳細および申し込み方法につきましては、
総務課企画推進係までお問い合わせください。
TEL:0742-22-4450(月～金の9:00～17:00)

● 特集展示関連企画 ●

2月13日(日) 修復完成記念特別講演会
「ウクライナ クリミア半島出土漢代漆器の保存修復」

・「ウクライナのスキタイ墳墓について」
Dr.Valentina Mordvintseva(ウクライナ考古学研究所)

通訳：庄野真佐子氏(前ケルン東洋美術館学芸員)

・「ウクライナ出土漢代漆器の保存科学的処理について」
岡田 文男氏(京都造形芸術大学教授)

・「ウクライナ出土漢代漆器の伝統的漆工技術による修復について」
北村 昭斎氏(漆芸家、漆工修理技術者)

午後1時30分～4時(午後1時に開場)。会場は当館講堂。定員196名(先着順。午後1時より、講堂入口で入場券を配布します)。聴講無料

※入場の際には、展覧会の観覧券もしくはその半券をご提示ください。
※都合により演題が変わることがあります。

◆奈良国立博物館賛助会

平成22年12月20日現在、一般会員(個人)36名、一般会員(団体)18団体、特別会員2団体、特別支援会員5団体のご入会をいただいております。新しく加入された方をご紹介します。

【一般会員(個人)】手島千恵子 様(平成22年10月ご入会)

大坂 義治 様(平成22年11月ご入会)

西山 敏郎 様(平成22年12月ご入会)

【一般会員(団体)】医療法人社団成風会 様(平成22年10月ご入会)

◆キャンパスメンバーズ

当館は、大学等と連携を図り、博物館が所蔵する文化財を核として文化や歴史を共に学ぶ場を提供する「キャンパスメンバーズ」の制度を設けております。

会員大学等の学生および引率教職員は名品展については無料、特別展については400円で観覧できます(共催展の場合は別途定めるものとします)。学生証(引率教職員は身分証明書)の提示をお願いいたします。

〈会員大学等〉

大阪成蹊大学芸術学部、大阪大学、大阪樟蔭女子大学・大阪樟蔭女子大学短期大学部・樟蔭高等学校・樟蔭中学校、京都外国語大学・京都外国語短期大学、京都教育大学、京都工芸繊維大学、京都嵯峨芸術大学・京都嵯峨芸術大学短期大学部、京都精華大学、京都大学、京都橘大学、京都伝統工芸大学校、京都ノートルダム女子大学、京都文教大学・京都文教短期大学、近畿大学文芸学部、近畿大学大学院文芸学研究科、実践女子大学・実践女子短期大学、就実大学人文学部、帝塚山大学・帝塚山高校、天理大学、同志社大学・同志社女子大学・同志社高等学校・同志社香里高等学校・同志社女子高等学校・同志社国際高等学校、奈良教育大学、奈良県立大学、奈良佐保短期大学、奈良産業大学・奈良文化女子短期大学・奈良文化高等学校・奈良学園高等学校・奈良学園登美ヶ丘高等学校、奈良女子大学、奈良先端科学技術大学院大学、奈良大学、佛教大学、龍谷大学・龍谷大学短期大学部
(五十音順)(2010年12月1日現在)

あ み だ さん ぞん らい ご う ず 阿弥陀三尊来迎図

1幅 絹本着色 縦110.4cm 横71.5cm
平安時代 12世紀
重要文化財
心蓮社所蔵



心蓮社は石川県金沢市にあり、慶長17(1612)年、露月休養上人の開基による浄土宗の名刹である。ここに伝わる本図は、平安時代に描かれた斜め形式の来迎図として遺品の少ない貴重なものである。

阿弥陀如来は来迎印を結び、観音菩薩は蓮台を捧持し、勢至菩薩は合掌する一典型的な来迎の様子だが、よく見ると本図はとところどころに独特の表現が見られる。

まず、阿弥陀如来は背の高い台座に坐しており、頭上にあたる画面上辺には大半を欠失するが華蓋の一部がある。いずれも、釈迦如来像や密教尊像に見られるものである。次に、観音菩薩は一般的な両手ではなく右手のみで蓮台(大部分が補筆)を支え、左手は第一指と第三指を接して来迎印を結んでいる。さらに、勢至菩薩の蓮華座は観音菩薩の受花と異なり、反花である。なお、画面向かって右上には飛天(大半は欠失)が描かれ、紅白の花弁を散華しながら下降しており、阿弥陀来迎図には珍しい図像である。

変色のため見えにくくなっているが、三尊は個別に乘雲する。この飛雲は銀泥でやや装飾的に描かれる。雲脚は画面の中を大きく蛇行し、画面の奥から緩やかな速度で来迎し浮遊する様子が見事に表されている。同様に見えにくくなっている二菩薩の天衣は、風を受けてゆるやかな弧を描いており、阿弥陀如来と二菩薩の間に空間があることを示している。

本図は、いわゆる平安仏画の特徴でもある豊かな彩色と戔金(大半は剥落)文様が美しい作品だが、ここでは少し異なる観点から見所を紹介させていただいた。改修後の見やすくなった展示室で、じっくりとご覧いただければ幸いである。

原 瑛莉子(当館学芸部研究員)

◆西新館にて、1月18日から2月13日まで展示

展示品の みどころ

ほう そう げ もん によ い 宝相華文如意

1柄 (爪部)銅製 鍍金 鍍銀 線刻／(柄)木製 黒漆塗
長63.5cm 爪部幅26.9cm
平安時代 12世紀
重要文化財
奈良国立博物館所蔵



ここに紹介する工芸品は、雲形をした爪部を金属で作し、木製黒漆塗の扁平な柄に取り付けた如意と呼ばれる僧具である。金属製で雲形の爪部をもつ如意は

平安時代以降の作例に見られるもので、本品は平安時代に製作された作例の一つである。

如意は、法会などで講師をつとめる僧侶などが持つ法具(僧具)で、形状は異なるが法隆寺の行信僧都坐像や東大寺の良弁僧正坐像などの持物としても知られる。出家者の持ち物である比丘十八物に数えられていないが、『優婆塞戒経』に摘抓(爪切り)や耳鉤(耳かき)といった日用品と並んで如意の名前が見え、もともとは現在の孫の手のように、手の届かないところを搔くための生活用具であったといわれる。

本品の爪部は一枚の銅板から作られたもので、柄に向かって大きく湾曲させて取り付けられ、全体に文様が線刻されている。文様は中央に宝相華をくわえた鳳凰が対向する双鳳文、その下方には山とも見える四つの土盛りがあり、その頂から宝相華が伸びて爪部全体に展開している。また間地には小鳥や蝶が表されている。一見すると、線対称の文様のように思えるが、よく見ると間地に表された蝶は向って右側のみで、また宝相華文様の表現も左右で異なっており、雲形部分をひとつの空間とした文様であることがわかる。文様部分は鍍金、間地には鍍銀が施されており、華やかな装飾をもつ数少ない如意の一つに数えられる。

永井洋之(当館学芸部研究員)

◆西新館にて、1月18日から3月14日まで展示

開館日時(1月～3月)

■開館時間

午前9時30分～午後5時

〔開館時間延長日〕

- ・2月8日(火)～14日(月)は午後9時まで
- ・1月22日(土)、2月3日(木)、3月12日(土)

は午後7時まで

- ・3月1日(火)～11日(金)・13日(日)・14日(月)

は午後6時まで

※いずれも、入館は、閉館の30分前まで

■休館日

毎週月曜日(月曜日が祝日に当たる場合は、その翌火曜日が休館)

- ※3月7日・14日は月曜日ですが、開館します。
- ※2月14日は月曜日ですが、なら仏像館・青銅器館・東新館は開館します(午後9時まで)

観覧料金

	一 般	大学生
個 人	500円	250円
団 体	400円	200円

*団体は20名以上です

*高校生以下および18歳未満の方、満70歳以上の方、障害者手帳をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です



〔交通案内〕近鉄奈良駅下車徒歩約15分、またはJR奈良駅・近鉄奈良駅から奈良交通「市内循環」バス「氷室神社・国立博物館」下車

※当館には駐車スペースがございませんので、最寄りの県営駐車場等(有料)をご利用ください。